

REPORT

岡崎市議会議員 野本あつし

活動報告通信

5月臨時会・6月定例会・7月臨時会
新型コロナ感染拡大対策議会編

岡崎市
南部から
発信

町の気づか
人の想いを
代弁したい



■ コロナ禍での議会

新型コロナ感染症拡大によって本市においても緊張や自粛が広がる中、新しい生活様式をふまえて5月臨時会、6月定例会、7月臨時会が開会されました。

いずれの議会も新型コロナ感染拡大対策の議案や予算の補正が大部分を占めていました。

また、6月定例会からは市役所業務を優先させる等の配慮をふまえて日程の縮小により各議員任意で行われる一般質問を見送り、議案等における職員とのヒアリングもメール等でのやりとりとなりました。

■ 他市との比較

5月頃にはテレビ画面で愛知県内の各自治体における新型コロナの影響に対する取り組みが文字で流れていたのを覚えているでしょうか？

小牧市や刈谷市などから独自のコロナ対策の施策が早々に示されました。

岡崎市はどうするんだ？と多くのご意見や要望をいただきました。

会派内で同僚議員と情報交換をしながら、日々、耳にする市民や事業者の声を要望書にまとめて行政に届けていきました。

その全てが実ったわけではないが、歯がゆさと無力感の中で、遅れを感じたものの、結果的には他市に引けを取らない施策体制をとってくれたと感謝しています。

ちなみに、本市は中核市であり保健所を有しています。また、市民病院をはじめ感染症病床を持つ病院等があることから「感染拡大の防止」や「命を守る体制」に注力し、公民連携による医療体制をしっかりと構築してくれたことは、他市とは比較し難い頼もしい実績であったと実感しています。

このことは是非、岡崎市民のみなさんに知っていただきたいところです。

■事業規模は約450億円を超える

3議会において示された新型コロナ感染拡大における対策事業の主なものとしては・・・

- ①特別定額給付金事業（10万円給付）と事務費として約389.9億円。
- ②感染症対策協力金交付事業（50万円を休業に協力してくれた事業者へ愛知県と岡崎市で折半して給付）として約14.4億円。
- ③子育て世帯への臨時特別給付金（児童手当対象の子ども1人につき、1万円給付）と、ひとり親世帯臨時特別給付金として約9.8億円。
- ④水道基本料金の80%×6ヶ月分の減収分として6.4億円。
- ⑤私立保育園および幼稚園の給食費補助として約1億円。
- ⑥公立保育園および小中学校の給食費3ヶ月分の無償化として約6.2億円。
- ⑦中小企業の事業資金の借り入れ時の保証料補助として5億円。
- ⑧プレミアム付商品券事業の助成額として約5億円。

その他にも不織布マスクの購入や保健所におけるPCR検査の回数を増やすための検査機器の購入などがありました。

■岡崎市の負担は約38.5億円

大きな事業全体の金額に目が行きますが、大部分は国による緊急経済対策としての特別定額給付金事業（10万円給付）となっていることが分かります。

岡崎市の財源による対策事業は・・・

- ①市内事業者への支援として約18.9億円。
- ②子育て世帯の支援として約7.3億円。
- ③公共料金の減免として約6.6億円。
- ④感染予防対策や第2派への備え約5.7億円。

細かい事業名は省略して、大きく4つに分けて示させていただきました。事業規模額と岡崎市の実負担額を比べ、議会や議員からも様々な意見がありました。

■対策費用はどこから？

年間の市の予算は3月に決まります。その編成された予算から、急きょ38.5億円もの金額を捻出することは困難です。

しかし、予算の中には「財政調整基金」という予期せぬ事態に備えた貯金のようなものが毎年120億円程度計上されています。

まさしく今が使い時であり、約38.5億円の市の負担額のうち24.5億円を財政調整基金から繰り出されました。また、その他にはコロナによって事業が不可能となり不用となった予算を更正したと考えられます。

■地方創生臨時交付金

国から令和2年4月1日以降に実施される事業を対象に「地方創生臨時交付金」が1次、2次と2回に分けて交付され、すでに1次として約6.2億円が交付されました。

これは市の負担に充当されると考えられます。なお、地方創生臨時交付金は各自治体の財政状況によって金額の増減があるようですが、2次の交付金額は約2.1億円と想定されています。

岡崎市および議会は地域経済および市民生活の回復に向けて必要な額を国に対して緊急要請を行いました。

■次年度予算を考えると

財政調整基金や国からの地方創生臨時交付金の存在を知ると、もっと市民への支援があってもいいのではないかと強く思いました。しかし、考えておかななくてはならないのは次年度以降の予算のこと。

地域経済のダメージにより、次年度以降の市税収入が減少するのは容易に想像できます。

令和元年度の岡崎市税務概要から平成30年度の一般会計歳入決算額は約1,286億円。そのうち、56%を占める約704億円が市税収入となっています。

大きく影響されるのは、その市税収入のうち、個人や法人の市税を合わせて約322億円と考えられます。

2008年のリーマンショック時での影響は半分程度減少したとのことであり、あくまで予想であるが約100億円程度の減収と考えられます。

こうしたことから、継続的で充実した例年と変わらない市民サービスや自治体運営を遂行していくためにも、むやみなバラマキは避けなくてはならないと考えました。

政治家は市民が喜ぶようなパフォーマンスがしたいものです。（僕も）しかし、そこは先々を考慮して抑えてくれたと思います。

また、南海トラフ沖地震等の災害の脅威にも備えておくことも忘れてはなりません。

そして、これまで行われてきた事業についても取捨選択が必要になると共に、今後の税収を増加させていくための投資的取り組みが必要と考えます。

そう、地方創生臨時交付金の2次の交付金については、他市においては既に使用が始まっているようです。

僕としてはコロナの2波による影響や経済悪化によって困窮する市民に寄り添った施策が執行されることを望み推進していこうと考えてます。

◎GIGAスクール構想の前倒し

文科省はこれまでの休校措置によって授業の遅れが危惧されている中、新型コロナウイルス感染の第2波を想定して、再び休校措置がされても在宅オンライン学習ができるようにと、これまで令和5年度の達成を目指してきました。

児童生徒にタブレット端末を1人1台配備する「GIGAスクール構想」を緊急経済対策として前倒しするように購入補助などの予算措置をしました。

岡崎市もこれに合わせ6月定例会でタブレット端末等の購入に向けた議案の上程および補正予算が計上されました。

教員用が1,467台と児童生徒用に24,520台、購入予算は約14.6億円、そのうち国の補助額は9.9億円となり、既に各学校にあるタブレット端末もふくめ、全児童生徒の手にタブレット端末が行き渡ることになります。

これから学校教育はICTの活用によってどんどん変わっていきます。

子ども達の学びに対する興味をさらに引き出すこと、目で見ることによって理解も進むと期待する反面、五感を刺激する感性の発達や想像力の低下などの心配も少々感じています。

メディアリテラシー（情報倫理）教育の必要性を強く感じています。子ども達の変化と共に必要な施策を提案していきたいと考えてます。

是非、保護者の皆さんからのご意見やご要望を聞かせて下さい。

◎新型コロナウイルスの感染第2波について

7月の後半から岡崎市民による感染者が増えてきました。

命と経済を天秤にかけることはできません。効果ある薬ができるまでは決して油断してはなりません。

こんな話は聞き飽きたことでしょう。でも、お願いします。再度、気を引き締めて新しい生活様式を取り入れた毎日を送ってください。

岡崎市内での新型コロナウイルス感染における情報は、岡崎市のホームページで随時更新されています。是非、確認してください。



[岡崎市ホームページ](#) →

LINE



FaceBook



Ameba Ownd



岡崎市議会議員

野本 あつし

〒444-0834 岡崎市柱町南屋敷40番地1

FAX :0564-77-3185

iPhone:080-3629-7556

MAIL :nomoto-atsushi@mics.ne.jp

<https://nomoto-atsushi.amebaownd.com>

REPORT

岡崎市議会議員 野本あつし



一般質問のおさらい

岡崎市南部のまちづくりについて（R1. 6月定例会より抜粋）



【質問】「命の道」として整備を要望してきた都市計画道路「若松線」の進捗は？

【答弁】 鉄道交差部の若松線ボックスを施工し、砂川をそのボックスに一旦迂回します。

その次に鉄道交差部の河川本線を施工し、その工事が完了した後、迂回していた河川を本線に戻します。鉄道交差部の河川工事完了後に若松線ボックスを道路として利用するための整備を行います。

若松線のボックス築造にあたり、ヤードを含めた用地が必要となることから、現在、鉄道付近の用地交渉を集中的に進めており、5月末現在において、このボックス工事に必要となる用地の約70%の売買契約を締結しております。



次世代情報化社会を見据えたまちづくりについて（R1. 6月定例会より抜粋）

【質問】 次世代情報化社会に向け、広域的な取り組みや連携体制の構築が必要ではないか？

【答弁】 人工知能を始めとする科学技術の進化は目覚ましく、それらを的確に行政サービスに取り入れることで、市民の利便性は大いに向上すると考えております。

災害リスクを人口知能で分析・予見する取組みを豊田市や安城市、幸田町など周辺自治体に加え、名古屋大学とも連携して取り組んでいるところです。

全国的な連携体制では、静岡市、熊本市などの中枢中核都市をはじめ官民合わせて52団体が所属する研究会におきまして、本市は事務局として中心的役割を務めております。研究会では、新技術が社会をどのように変革させていくか、その中で官民連携により何ができるかなどについて毎月情報交換を行っております。

また、国土交通省のスマートシティ推進パートナー制度に参画することで先進事例の共有や財源等について、重点的に支援を受けられる体制を構築してまいります。

カワイイに出会えるまち、オカザキの取り組みについて（R1. 6月定例会より抜粋）

【質問】 シティープロモーションとして
内藤ルネ氏の作品を活用すべきではないか？



【答弁】 犬猫の糞の放置を禁止する条例の周知のため、犬の飼い主に向けたエチケットバッグを啓発品として準備しております。

そのほかにも、公共インフラについて啓発を行うため、ルネガールやルネパンダをデザインして、皆さんの目を惹くようなデザインマンホールの設置も検討しております。

新たな「さくらピンバッジ」についても、ご提案いただいたルネ作品のデザインを使用することも候補の一つとして検討しますので、楽しみにお待ちしております。

区画整理の影響による岡崎小学校について（R1. 9月定例会より抜粋）

【質問】 区画整理地と岡崎小学校のグラウンドには、見た目にも分かる高低差ができています。この高低差に伴う雨水排水の計画はどうなっているか？

【答弁】 学校敷地周辺の区画整理地は学校敷地より、約50センチ高くなっていますが、区画整理区域内からの雨水の流入はなく、学校敷地内の雨水については区画整理事業で整備される雨水管に放流する計画となっております。

なお、学校敷地内の雨水については、岡崎市特定事業手続条例に基づき、敷地内に雨水を一時貯留できる施設を整備し、大雨時の雨水の流出抑制を図る計画であります。

【質問】 防火水槽としての役割があるプールです。プールへの消防車両の動線確保が必要です。隣接する都市計画道路「福岡線」から消防車両が進入できるようにすべきではないか？

【答弁】 都市計画道路「福岡線」とプール周辺の地盤の高低差が50センチありますので、プールに消防車両が近接できるように、都市計画道路「福岡線」から進入できるようにスロープを整備する計画をします。

【質問】 学校用地の拡張により学校の敷地が都市計画道路「福岡線」沿いとなります。交通量も多くなると予想され、児童に対する安全性の確保や、防犯上の対応からもフェンスなどの安全策が必要ではないか？

【答弁】 都市計画道路「福岡線」沿いを含めた学校敷地周囲には、安全性の確保や防犯のためのフェンスを設置するとともに、学校敷地に入出入りする全ての門に、防犯カメラを設置してまいります。



選ばれる市営住宅（R1. 9月定例会より抜粋）

【質問】市営住宅の入居者の高齢化が進んでいる。市営住宅をひとつのコミュニティと考え、維持運営を考慮し、若い世代の入居も必要ではないか？

【答弁】現在、建替え事業を行っている平地荘、五本松住宅の建設事業において、住居の間取りをすべて同一とはせず、1DK、2DK、3DKといった、異なるタイプを混ぜて整備している。

また、敷地内に放課後児童クラブを併設することにより、子育て世代が入居しやすい環境整備も行っていきます。その他、土井住宅建設時に行った子育て世代の優先入居枠を設けて抽選を行ったように、これから整備される平地荘、五本松住宅や、大規模改修後の既存市営住宅の入居者募集についても、同等の取り組みを行い、若い世代の入居を促すことで団地内のコミュニティー活動が円滑に行えるよう配慮していきます。

不登校の児童・生徒について（R1. 9月定例会より抜粋）



【質問】子供の自己肯定感の低さにおける、学校教育の対応はどうか？

【答弁】子供の不登校には、様々な要因が複雑かつ複合的に関係している場合が多いと考えています。したがって、一人一人の状況や背景を把握、分析して、その子に合った支援・指導をしていくことを大切にしています。

ご指摘の「子供の自己肯定感の低さ」についても大切な視点の一つと考えています。内閣府が行った調査によれば、不登校の児童生徒に限らず日本の子供の自己肯定感は、欧米やアジアの国々と比べて低いという結果が出ています。そこで、学校現場では、子供たちの自己肯定感を高めるよう努力しています。

その結果、全国学力・学習状況調査において、平成25年度以降、本市の児童生徒の自己肯定感をもつ割合が増加傾向となっています。

今後も、子供たちが活躍し、十分な達成感の得られる学習指導や特別活動、学校行事などの教育活動を積み重ね、自己肯定感を育む教育を進めていきたいと考えています。

若者にとって魅力的なまちづくりについて（R1. 12月定例会より抜粋）

【質問】岡崎の若きスポーツ選手や文化人、すなわち「未来に羽ばたく岡崎の金のタマゴ」への支援策として、ふるさと寄附金の活用はどうかと考えます。現在、岡崎市のふるさと納税には8つの使い道が指定されています。この「使い道」に取り入れてみてはと考えるがどうか？

【答弁】このふるさと納税は、ふるさとや、そうではないが応援したい自治体や政策に役立てるのが本来の趣旨である。

ご提案の「未来に羽ばたく岡崎の金のタマゴ」の育成に向けた使い道は、郷土から輩出したスポーツ選手や芸術家、または研究者といった方々の活躍は、郷土、ふるさとに対する愛情や誇りをかきたてる大きな要因と考えられることから、まさに、多くの皆様から共感を得られる、魅力ある使い道と考えており、今後、検討を進めて参りたいと考えています。



野本の主張

不登校の児童・生徒について9月定例会で取り上げられることが多かった。

その際、教育委員会が把握している不登校の児童・生徒の実数の公表をするのかしないかの議論があった。公表を望む理由は、数字による増減を把握し、対策の効果を精査するのが目的と理解している。結果としては、閉会中の委員会にて教育委員会の独自調査にて、実数を公表するとなりました。僕の考えは、不登校の理由は千差万別であり、原因も家庭生活と学校生活がほぼ半分ずつとデータが示されており、対象は多感な思春期の少年少女である。

いくら教育の専門家といっても、そんなに劇的に変わる特效薬があるわけがない。各学校の教職員が把握し、その子に合った対応を慎重にしていくしかないはず！

公表することによって心配がある。それは、数字を気にして、学校復帰を強引に促して、さらに深い傷をつけてしまうのでは？ということ。

また、不登校のまま卒業を迎えたら数字は効果に関係なく減少するわけで、公表される数字の上下に意味はなく、その数字をもとに議論するのはもった意味はない。

これは、人の心の問題。数字の上下で一喜一憂することではない。

従って、不登校の児童・生徒の実数公表はすべきではないと訴えます。



まちの変化

令和2年4月の藤田医科大学岡崎医療センターが開院しました。周辺の交通量の増減や変化に注目しなければなりません。

以前から、岡崎碧南線にある針崎町にある交差点は、新病院へ向かう主要な道路になると考えられてきました。しかし、クロスでない変則的な信号交差点と、岡崎駅側から交差点進入し岡崎小学校方面および病院方面への右折帯がなく、大渋滞してしまうことが危惧されていました。



したがって、交差点の拡幅と信号位置の変更と右折帯の新設が必要と提案いたしました。

関係する方々のご理解をいただき、交差点の移設と右折帯の設置を含む交差点改良がなされました。

この工事に併せて、同じく以前からの課題であった、交差点の雨水の冠水被害の解消や周辺住宅街への下水道の整備、ポンプ場へ向かう道路の強化整備をさらに推進していきます。

周辺住民の皆さまには説明をしながら、ご理解とご協力を賜りますようお願いしていきます。

LINE



FaceBook



Ameba Ownd



岡崎市議会議員 野本あつし

〒444-0834 岡崎市柱町南屋敷40番地1

FAX :0564-77-3185

iPhone:080-3629-7556

MAIL :nomoto-atsushi@mics.ne.jp

<https://nomoto-atsushi.amebaownd.com>

岡崎市 野本あつし

議会議員 活動報告通信

令和2年度岡崎市3月定例会当初予算号



◎ 情報提供の重要さを知る

新型コロナウイルスの猛威の中、岡崎市南部は藤田医科大学岡崎医療センターにクルーズ船の感染者受け入れにより地元住民は大きく揺れました。離れたところに住む方々からは英断だと称えられましたが、病院・小学校・高齢者施設を見渡して怖くなったのを覚えています。

まさしく急転直下の出来事に、あらゆる方面の不安や混乱、そして緊張状態は今でも忘れられません。思い返すと、この情報社会において何も知らされなかったこと、どうしたらよいのか分からないということが、近隣住民の大きな不安や混乱を招いたと分析しています。

批判やリスクは怖い。しかし、主旨をしっかり示し、市民を信じて情報を開示し、誠意を持って説明をすれば、後々、理解と協力を得られると実感しました。学校の休校措置、市内での感染者の発生、経済活動への圧迫など、先の見えない不安の中、何かを決められるわけでない脆弱な身ですが、地域の代弁者として想いを伝えていきます。



◎ 令和2年度3月定例会について

令和2年度の予算において、これまでの観光施策や中心市街地の活性化を見据えたインフラ整備もひと段落して、高齢者の移動や安全安心といった生活課題に向けた補助事業や学校教育の環境整備や子どもに係る医療費への助成や防犯対策などの市民に優しく頼もしい岡崎市となる事業が多いと感じました。

中心部でのハード整備として、太陽の城跡地にコンベンションホールを含めたホテルの建設は、議会の中でも賛否が分かれる結果となり、複合的に必要性や可能性をふまえた前向きな議論が必要になると考えます。

南部地域では藤田医科大学岡崎医療センターが開院しました。これから大型商業施設、道路、公園、保育園、住宅等の新設が進みます。こうした変化を推進していくと共に、予期せぬ町の気づきを改善していくことが使命であります。

東部地域の商業施設を中心としたまちづくりは、その一步を踏み出したようであります。東部地域の雇用の創出や賑わいが期待されます。

最終日には、保育施設などに新型コロナに対するマスクや消毒用アルコールを購入する補正予算が組まれました。予算は付いても購入が可能なのかと心配しています。



〒444-0834 岡崎市柱町南屋敷40番地1

FAX : 0564-77-3185 iPhone: 080-3629-7556

【MAIL】 nomoto-atsushi@mics.ne.jp

【HP】 <https://nomoto-atsushi.amebaownd.com>

令和2年度の 岡崎の主な予算



認知症高齢者事前登録者による、ひとり歩きの際の不測の事態に対する賠償責任保険制度が新設。



固定電話を利用した特殊詐欺や自動車の誤操作での急発進による事故に対する機器購入への補助金制度が新設。



バス事業者が65歳以上に発行している高齢者パスの購入費の一部を市で負担して、免許返納者などの外出支援を図っていく。また、JR岡崎駅西口から藤田医科大学岡崎医療センターを結ぶ新たなバス路線が新設。



小中学校における、教育現場のICT化に向けた環境整備が始まり、将来はタブレットが児童生徒に一人一台充てられることとなります。



災害時の重要活動拠点となる中央総合公園や市民病院へつながる道路を無電柱化することや、避難所へ接続される水道管の耐震化、雨水による浸水災害を解消すべく管の延長工事が計画されている。



高校生世代まで入院による保険診療の自己負担分が無料となりました。ただし、償還払いとなることから病院窓口において、一度、支払いをしなくてはなりません。窓口での一時的な負担が少しでも軽くなるように「限度額適用認定証」の取得をおすすめします。



今年度から市内に防犯カメラ1000台を目標として設置していく。これまでに地域で設置された防犯カメラについては不利の無いように補助がなされます。また、小中学校の登下校で利用される門などに防犯カメラの設置を始めていく。



市民病院にがん診療の強化として、がんを発見するPET-CT及びデジタルマンモグラフィ等の最新機器を導入稼働する。また、手術における患者様の身体的な負担が軽減される手術支援ロボット（ダヴィンチ）の運用を開始します。



- 東口デッキの側面に時計設置
- 西口駅前広場の改修と駐輪場の有料化
- 都市計画道路「柱町線」の延伸

◆岡崎駅の増える昇降口

【質問】目に見えて進捗する東口のペデストリアンデッキの整備です。

整備が完了すると岡崎駅の昇降口は9ヶ所となる。常に通勤や通学で利用される方にはさほどの影響はないかもしれないが、市外からの来訪者や観光客への案内などを考慮すると、各昇降口に目印が必要ではないか？

【回答】駅利用者の利便性と維持管理面を考慮して、デッキの整備にあわせて、各昇降口に番号を付けることを考えている。さらに、既存の自由通路の案内サイン看板も増設を行い利便性の向上に努める。

【意見】利便性の向上を期待する。

◆デッキ側面にシンボリックな時計

【質問】タクシー乗り場に時計塔がありますが、出会いの杜公園からは見えなくなってしまったという市民の声がある。整備中のペデストリアンデッキの側面に時計を設置することが必要ではないか？

【答弁】東口駅前広場の北の時計塔が、既設のペデストリアンデッキが邪魔になり、南側から見えなくなっている状況は把握している。

対策として駅前広場の南方面から目にしやすい位置に時計を増設することを考えている。

【意見】名鉄東岡崎駅には「若き日の家康像」ができるように、JR岡崎駅のシンボルになるような大きな時計の設置を期待する。



◆ J R 岡崎駅西口駅前広場の全体改修

【質問】 藤田医科大学岡崎医療センターの2020年4月開院を見据えて、西口駅前広場の全体改修の必要性が高まっている。今後の計画を問う。

【回答】 西口駅前広場は完成から28年が経過し、整備当時と比べ、都市化が進み、利用者が増加傾向である。

主な計画として・・・

- 1、中央モニュメントは撤去とS Lのモニュメントは移設して面積を広くとる。
- 2、南北に公共交通と一般送迎を分離する。
- 3、南はバス乗降場2ヶ所とタクシー乗降場は1ヶ所で2台分。
- 4、北は一般車専用で中央部分は短時間利用の駐車場。
- 5、自由通路昇降口横の歩道の最小幅員を現在3mから6mに拡幅し、歩行者導線の安全性の向上を図る。

今後は、2019年1月下旬ごろに地元説明会を目指す。全体改修となると工事期間は3年程かかる。

【意見】 駅前広場の改修に留まらず、東口同様に西口もペDESTリアンデッキを延伸し、活性化と賑わいを目指したいと考えます。

◆ 都市計画道路「柱町線」の延伸

【質問】 岡崎駅南のまちづくりにおいても、新病院へのアクセス道路としても重要な柱町線ですが、延伸部の事業化に向けての今後の取り組みについての考えを聞かせてください？

【答弁】 今年度は、延伸の計画を地元で説明できるように、必要な図面を作成しております。来年度以降には、延伸ルートに係る地権者の方の意向を調査したうえで、整備するための事業方法を研究しながら、都市計画決定へ向けて手続きを進めて参りたいと考えております。

【意見】 この先10年のまちづくりを考慮して推進していくことが重要と考えています。地元議員として整備に向けて覚悟を持って推進していきます。対象となる地権者さんには、今回の質疑と答弁を持って説明と協力をお願いをしていきます！

◆ 西口駐輪場の有料化

【質問】 西口駐輪場についての問題について自分なりにまとめると4つである。

- 1、収容台数を超え、常に満車状態。
- 2、施設の経年劣化。
- 3、自転車の窃盗が多発。
- 4、場内に自転車が放置。

東口の有料化によって西口の駐輪場にしわ寄せがきている。岡崎学区内での自転車盗難件数29件のうち、26件が西口駐輪場内で発生。場内には注意札がくぐられた放置自転車が目立つ。原則7日以上での放置で撤去し、その費用は公費で賄われている。

こうした問題を解決する為には西口駐輪場も施設整備をして有料化するべきではないか？

【回答】 以前は、東口においても同様の問題があったが、施設整備による有料化の結果、大きく改善された。

今後の需要増加も見据え、現在の場所で、早期に民設民営による駐輪場整備を検討していく。

さらに、駅前用地の有効活用の観点から、商業施設との複合施設として来年度中には事業者募集が進められるようにしていきたい。

【意見】 必要性について市民の理解を得ることも大事です。また、まちづくりのリーダーシップをとることも責務と考えます。設計について、1階にカフェ、2・3階を駐輪場とし、既存の自由通路と繋がることを期待します。



〒444-0834
岡崎市柱町南屋敷40番地1
FAX:0564-77-3185
iPhone:080-3629-7556
nomoto1188okazaki@i.softbank.jp
MAIL:nomoto-atsushi@mics.ne.jp
<https://nomoto-atsushi.amebaownd.com>